

## キャラクターと文法

### —『NARUTO』に現れる提題表現「ってば」について<sup>1</sup>

(Figuren und Sprache. Über die Topikpartikel *-tteba* in *Naruto*)

朽方修一 Kuchikata, Shuichi

(エルジエス大学 文学部 日本語日本文学科 Erciyes Üniversitesi, Edebiyat Fakültesi, Japon Dili ve Edebiyatı Anabilim Dalı)

### 要旨 / Zusammenfassung

本稿ではナルトの用いる提題表現「ってば」をキャラ語として捉え考察した。その結果、「ってば」は基本的にはナルトというキャラクターを特徴づけているのだが、本来「は」が現れるべき場合、本来「無助詞」となる場合、本来「主格」の「が／の」でなければならない場合を無視し提題助詞として自由に現われていることを確認・考察した。そしてキャラ語翻訳についても触れ、「ってば」が的確に訳されていないことを指摘した。キャラ語は、もちろんキャラクターを特徴づけるために使用されているのだが、単にキャラクターのことばとして片付けてしまうのではなく、言語学的な視点から考察することも重要な大きな意味を持つ。そしてその知見をもとに翻訳という実践的な作業に活かすことができれば、教育的な意味でも有益となる。

In diesem Beitrag wird als Beispiel der Besonderheiten der Figurensprache die Topikpartikel *-tteba* in *Naruto* betrachtet. Es soll gezeigt werden, dass die Figurensprache *-tteba* nicht nur Narutos Äußerungen charakterisiert, sondern auch unabhängig von den grammatischen Regeln und Bedeutungen dort erscheint, wo normalerweise mit der Themapartikel *wa*, der Null-Partikel und der Nominativpartikel *ga* oder *no* markiert werden sollte. Darüber hinaus wird die Problematik diskutiert, die die Übersetzung von Figurensprache beinhaltet.

Die Figurensprache kann unsere sprachlichen Kenntnisse verändern. Deshalb ist es sinnvoll, sie aus linguistischer Sicht zu analysieren. Die Ergebnisse können japanisch Lernenden und Übersetzern eine Hilfestellung bieten.

1 本稿は2012年8月17～20日に行われた日本語教育国際研究大会(ICJLE)でのポスター発表「キャラクターと文法—ナルトの提題表現「ってば」の用法を中心に—」の内容に大幅に加筆・修正を施したものである。査読者の先生方には大変重要かつ貴重なコメントをいただいた。心より感謝申し上げる。当然であるが、本稿の内容の責任はすべて筆者にある。

## 1 はじめに

近年では世界的にマンガやアニメに対する興味関心が日本語学習動機の大部分を占めている。ドイツでも例外ではなく、日本語でマンガやアニメを理解したいと望む学習者も少なからず存在する。そこで、本稿ではドイツでも人気のある『NARUTO』の主人公「うずまきナルト」（以下、ナルトと表記）の話し方に注目し、分析する。具体的にはナルトが頻繁に使用する提題表現「ってば」を対象とし、「キャラ語」という観点から考察する。結果として、単にナルトというキャラクターを特徴づけているだけでなく、「は」、「無助詞」、「主格」の「が／の」の位置に現れ、本来あるべき文法要素に代わって、新たな文法を作りあげていると考えられる例もあることを指摘する。また、翻訳の問題にも触れ、キャラ語「ってば」が的確に翻訳されていないことも確認する。

本稿の構成としては、まず 2 節で『NARUTO』という作品を概観し、研究の対象を示す。3 節で分析の中心となる「ってば」、「役割語」、「キャラ語」について確認し、続く 4 節でナルトのキャラ語「ってば」について具体的に考察する。そして最後にキャラ語翻訳の問題について簡単に触れる。

## 2 研究の対象

### 2.1 『NARUTO』について

まず、『NARUTO』という作品について簡単に紹介する。『NARUTO』は岸本斉史によるマンガで、『週間少年ジャンプ』（集英社）に 1999 年から連載されている。単行本は 2012 年 12 月現在 63 卷まで発刊されている。英語、フランス語など複数の言語に翻訳されており、ドイツ語版も 2012 年 12 月現在 58 卷まで発刊されている〔[wikipedia 「NARUTO —ナルト—」](https://en.wikipedia.org/w/index.php?title=NARUTO_%E3%80%90Manga%27%22&oldid=9000000) および「[Naruto \(Manga\)](https://en.wikipedia.org/w/index.php?title=Naruto_(Manga)&oldid=9000000)」〕。忍者ということもあってか、海外でも人気が多く、アニメも放送されている。最近ではコスプレなどでも人気があり、今では日本を代表する作品と言っても過言ではない。

主人公のナルトは生まれて間もなく両親を亡くし、孤独に育ったせいか心の奥深くには闇を抱えている。しかしこれを表に出さず、常に前向きな性格で周囲を明るくさせるような人物である。負けず嫌いな努力家で、里の仲間を家族同然非常に大切にしている。里の長「火影」になることを目

標としていて、同じような境遇で育ったライバルであり友人のサスケのことを常に思い行動している。

## 2.2 ナルトの言語表現と本稿での対象

ナルトの話し方は特徴的で、提題表現「ってば」および複合文末表現「ってばよ」を頻繁に用いる。1人称は「オレ」で里長、先生、先輩忍者に対してもいわゆるタメ口である。

- (1) オレってばスゲーんだからなあ! (2: 38)<sup>2</sup>  
(2) いつでもいけるってばよ! (2: 29)

本稿では(1)のような提題表現「ってば」が現れたもののみを対象とし考察する。データは単行本1巻から61巻までとし、手作業で収集した。

## 3 語の用法・定義

具体的な分析に入る前に提題表現「ってば」、役割語、キャラ語の用法・定義をそれぞれ確認し、本稿における「ってば」の位置づけを明確にする。

### 3.1 提題表現としての「ってば」

まず「ってば」について確認する。「ってば」は「と言えば」の縮約形とされ、大きく分けて2つの用法がある。1つは(3)のような終助詞用法であり、もう1つは(4)のような係助詞用法で、提題として機能するものである。

- (3) もう、わかったってば  
(4) 私ってば本当にばかなんだから

本稿では(4)のような提題を対象としているので、この用法に限り詳しく見ていくことにする。〔日本語教育学会編 1982: 407〕に以下のような説明と例がある。<sup>3</sup>

〈A〉話し手の非難や呆れや不平、不満の気持ちを込めて人を題目として提示する。

2 本稿では『NARUTO』からの例は日本語版、ドイツ語版とともに(巻号:ページ)という表記で示す。また本稿における例の下線はすべて筆者が付したものである

3 〔日本語教育学会編 1982〕には〈A〉〈B〉という表記は見られないが、本稿では便宜的に使用する。

- (5) 彼ってば遊んでばかりいて、勉強をちっともしない
- (6) お母さんんてば私の言うことをひとつも聞いてくれない  
んだから

<B>すでに別の話し手が言及していたり、自分が心の中で想起していたりしたことを取り上げ、それを題目として提示したり、それをきっかけにして、それに関連のあることを思い出して述べる場合に使う。

- (7) 彼ってば、そうそうアメリカに留学したよ
- (8) にぎやかってば君の町もにぎやかだね
- (9) 太郎は優秀な成績で大学を卒業したよ。太郎ってば次郎はどうしたんだろう

<B>はまさに「と言えば」という意味であり、<A>は(3)のような文末表現として用いられる場合と同様に、話者の感情が強く表れた表現である。三枝 [1999: 5] はこのタイプの「ってば」が受ける語は、①第三者、および、話の場に存在する具体物、②話し手自身、③聞き手自身の 3 つに分けられるとしている。<sup>4</sup> (4)では「私」=話し手自身であり、(5)では「彼」=第三者であり、(6)では「お母さん」=聞き手自身ということになる。また、形式の似ている「って」と異なり、(11)のように非難やいらだちを表さない場合、独り言として用いることができず、また、(13)のように話し相手がいたとしても文脈無しにいきなり用いることができないことから、かなり使用条件の限られた表現であることがわかる。

- (10) 明日って何日だったっけな？
- (11) ×明日ってば何日だったっけな？
- (12) ねえ、明日って何日だったっけ？
- (13) ×ねえ、明日ってば何日だったっけ？

4 [三枝 1999: 6] に③の場合、「ってば」は「って」に言い換えることができないとの記述があるが、それは適当とは言えない。例えば「あんたってばホントにバカね」は「あんたってホントにバカね」と言い換えることができ、強弱の差は感じるかもしれないが「って」の場合でも「非難」の意味が現れていると考えられる。

### 3.2 役割語

役割語は〔金水 2003〕において包括的に論じられており、以来現在まで日本語・日本語教育研究の一分野として盛んに研究が行われている。定義は以下の通りである。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。

〔金水 2003: 205〕

役割語の具体例としては(14)(15)が挙げられる。

(14) そうじゃ、わしが知っておる (老博士)

(15) そうですわよ、わたくしが存じておりますわ(お嬢様)

〔金水 2003: v〕

役割語にとって特に重要な要素は「人称代名詞」と「文末表現」であり〔金水 2005: 205〕、(14)では「わし」、「じゃ」、「おる」が老博士を想起させる言語表現（「博士語」「老人語」）、(15)では「わたくし」、「わよ」、「わ」がお嬢様と密接に結び付いた言語表現（「お嬢様ことば」）と見なすことができる〔金水：2003: 1-28, 129-173〕。

また、〔金水 2011: 14〕は「フィクションで、キャラクタを特徴づけるために、予測される役割語と異なる表現をわざと用いさせることができときどきある」<sup>5</sup>とし、青年男子が老人語を使う例としてマンガ『ONE PIECE』（尾田栄一郎著、集英社）の「カク」を挙げている。そして、ライトノベルでは上記のような「役割語のずらし」が活用される傾向があるとも述べている。実際ライトノベルからは容易に「役割語のずらし」の例が見つかる。例えば『バカとテストと召喚獣』（井上堅二著、ファミ通文庫）に登場する男子高校生「木下秀吉（きのしたひでよし）」は、容姿は美少女そのものであるが言葉づかいは「ワシ」、「～じゃ」である。ほかにも例えばマンガ『咲-Saki-』（小林立著、スクウェア・エニックス）の

5 〔金水 2011〕、〔定延・張 2007〕では「キャラクタ」と表記されるが、本稿では「キャラクター」と表記する。

「国広一（くにひろはじめ）」という女の子のキャラクターは「僕」という一人称代名詞を使用している。「僕」を使う女の子のキャラクターもマンガやアニメなどにおいては定着しつつあり「ボクっ娘（ぼくっこ）」と呼ばれ、いわゆる「萌え要素」の一種と解釈されるようである〔はてなキーワード「ボクっ娘」〕。

日本語はキャラクターと結びついた人称代名詞や文末表現が豊富であり、その使い分けによって様々なキャラクターを創造したり演じたりできることがわかる。

### 3.3 キャラ語

キャラ語を考える前に、まず、キャラ語尾について触れておく。キャラ語尾は役割語の一種と見なすことができ、〔金水 2003: 188〕において「特定のキャラクターに与えられた語尾」と定義されるものである。具体的には(16)の「クボ」や(17)の「ナリ」が該当する。

- (16) 何かご用クボ? (モーゲリ「FF9」)  
(17) 拙者が行くナリ (コロ助「キテレツ大百科」)  
〔金水 2003: 188〕

キャラ語尾は役割語よりもさらに特定された言語表現である。役割語は例えば「お嬢様」というキャラクターカテゴリーに共通する言語要素とみなすことができるが、キャラ語尾は基本的にそれを使用するキャラクターしか用いない個体特有の言語要素であると言うことができるだろう。

〔定延・張 2007〕ではキャラ語尾の細分化が検討され、キャラ語尾にはキャラコピュラ、キャラ終助詞、キャラ助詞の3つがあると指摘されている。(18) がキャラコピュラ、(19) がキャラ終助詞、(20) がキャラ助詞の例とされる。それぞれの特徴を簡潔にまとめれば次のようになる。(18) の「おじゅる」はコピュラ（「だ、です」など）の変異体とされ、「ふつう」のコピュラとおおよそ同じ位置に現れ、キャラクターを特徴づける。(19) の「お」は「よ」の代わりに用いられており、「ふつう」の終助詞が現れる位置に現れ、キャラクターを特徴づける。(20) の「ぶーん」は代わりとなる「ふつう」の助詞が存在せず、終助詞の後に現れ、キャラクターの特徴づけに貢献する〔定延・張 2007〕。

- (18) はじめましてでおじゃる。まろも富山東高校の1年生  
でおじゃる。〔定延・張 2007: 100〕
- (19) 耻をかかされたと怒る人は、その人を恐がっても怒る  
んだお。〔定延・張 2007: 109〕
- (20) おおっ、今日は誰かねぶーん。〔定延・張 2007: 102〕

『NARUTO』は忍者のマンガであり、主人公ナルトも忍者である。しかし忍者と「ってば」という言語表現の間に何らかの結びつきを認めるのは難しく、「ってば」という表現を見聞きしても「忍者」を思い浮かべることはほぼ不可能である。したがって、「ってば」は忍者の役割語ではない。『NARUTO』をよく知っている人々は、「ってば」からナルトを思い浮かべることもできるかもしれないが、いずれにしても他のキャラクターとの結びつきが考えられないため「ってば」はナルトに特有の表現であると言える。しかし、「ってば」は3.1に示した通り実際に使用される表現でもある。ナルトの「ってば」はナルトというキャラクターを特徴づけていることに加え他の文法機能の代わりに使われている場合がある（4節参照）。また出現位置としては提題助詞の位置に現れており、語尾ではないため〔定延・張 2007〕で述べられているキャラコピュラ、キャラ終助詞、キャラ助詞のいずれにも該当しないと考えられる。そこで本稿では便宜的に「キャラ語」と呼び、次のように定義しておく。

### 【キャラ語の定義】

あるキャラクターだけが使用する言語表現で役割語よりもさらに特定、限定される。キャラクターを特徴づけるだけでなく、場合によっては本来の文法機能語の代わりに用いられる。

## 4 ナルトの提題表現「ってば」の考察

この節では具体的にナルトの「ってば」について考える。まず4.1で収集した例の表現形式、出現数と特徴について述べ、その後、出現位置に注目してキャラ語としての「ってば」を考えてみたい。4.2でキャラ語「ってば」と「は」および「無助詞」に関して、4.3でキャラ語「ってば」と「主格」の「が／の」に関してそれぞれ考察する。

#### 4.1 出現数と特徴

『NARUTO』単行本1巻から61巻までの例を収集した結果、ナルトの提題表現「ってば」を含む表現は全141例であった。表現のヴァリエーションと出現数は＜表1＞の通りである。

＜表1＞『NARUTO』における提題表現「ってば」の表現と出現数

	「ってば」を含む表現	出現数 (計141)
①	オレってば(俺ってば)	97
②	お前ってば	10
③	こいつってば(コイツってば)	8
④	あれってば(アレってば)	5
⑤	それってば	5
⑥	これってば	4
⑦	カカシ先生ってば	2
⑧	あいつらってば	1
⑨	イカ焼きってば	1
⑩	エロ仙人ってば	1
⑪	オレ達ってば	1
⑫	オレのチャクラってば	1
⑬	この術ってば	1
⑭	三忍ってば	1
⑮	先生ってば	1
⑯	そのでっかいカエルってば	1
⑰	みんなってば	1

最も多く見られた例は(21)のような「オレってば」(「俺ってば」も同等とみなす)という形式であった。

(21) オレってばもっと強くなりてーんだ (3:74)

「ってば」の出現位置について考えてみると、「を」格の位置に現れる1例を除き、すべて「が」格の位置に現れている。位置的には「が」格の位置ではあるが、実際には主題の「は」、「無助詞」でなければ文脈上不自然となる例がほぼすべてを占めており、主格の「が」あるいは「の」でなければならない例が1例見られた。そして(22)から(29)で示すように「は」、「が」、「って」、「無助詞」でマークしてある例も見られることから、必ずしも「ってば」という形式にはならないし、また、いつ、どのような場合に「ってば」が現れ

るかは定かではない。しかし、(24) (25)のように「は」でマークされている場合、全てではないがナルトの決意を明示するようなシリアルスな発言であることが指摘できよう。

- (22) オレが火影になつたらオッサンだつてオレのこと認め  
ざるをえねエーんだぞ! (2: 39)
- (23) オレがこのクナイで…オッサンは守る (2: 65-66)
- (24) オレはサスケにゃ負けねエ… (2: 65)
- (25) オレはオレの忍道を行つてやる!! (4: 118)
- (26) やっぱ オレってすごい影響力なんだな (11: 158)
- (27) オレってあんまかんけーねーってばよオ! (17: 110)
- (28) オレゆそーゆーのよく分かんねーんだもん!! (1: 63)
- (29) 僕達ゆバカみてーじゃん! (2: 173)

さて、いま一度(21)を見てみよう。この発話は「なんで修行なんかしてるんですか?」(3: 74)の返答である。この「ってば」は3.1に示した<A>にも<B>にも該当せず、不自然な印象を与える。「は」あるいは「無助詞」でマークされたほうが自然であり、ナルトというキャラクターの発話を特徴づけていることから、キャラ語として捉えるのが妥当であろう。特別非難や不満の対象でない場合、わざわざ自分を引き合いにだし「ってば」でマークするのは余剰的で不自然である。結果として、収集した例は、次の(30) (31)を除いて、現実の用法としては不自然な印象を与えるキャラ語と見なすことができる。<sup>6</sup>

- (30) くっそオ~~コイツってば どの任務もオレにカリばっ  
か作らせていいとこ持つてきやがってエ~~~ (4: 125)

(30)は同じチームのサスケに対するいらだちを心の中で表したものである。文末の「やがる」という表現からもいらだちという意味がはっきりと分かる。これは3.1の<A>に該当し、(4)と同等の表現と言える。

- (31) 三忍ってば木の葉の忍者だろ? なのに何で!? (18: 84)

<sup>6</sup> 本稿での「現実の用法」というのは3.1の<A><B>に該当する用法である。「ってば」は小説やマンガなどのフィクションにおいては比較的容易に見られる表現であるが、実際の生のコミュニケーション（真の意味での「現実」）においてどの程度使用されているかは定かではない。この問題に関しては今後の課題としたい。

(31)は里の三代目火影を殺した大蛇丸が里の英雄的存在である「三忍」の一人であることがわかった際に発せられたものであり、この「ってば」はまさに「と言えば」という意味で3.1の<B>に該当する。したがって、実際に用いられる「ってば」と同等とみなすことができる。

#### 4.2 キャラ語「ってば」と「は」、「無助詞」

キャラ語「ってば」は(30) (31)および後述の(42a)を除き、すべて「は」あるいは「無助詞」の代わりとして用いられている。例えば(32a)は(32b) (32c)のように「は」でも「無助詞」でも置き換えることができる。この例の場合、ほかの誰かと対比しているわけではなく主題を表していると考えられ、「は」でも「無助詞」でも意味的な相違はほとんど感じられないようと思われる。<sup>7</sup>「オレは」の後にポーズを置くなど強調すれば当然「無助詞」の場合とは違った印象を与えるが、(32a)はナルトが照れくさそうにはにかみながらさらっと発言している場面である。「は」となるか「無助詞」となるかは発話場面やキャラクターの表情も影響すると言えよう。

- (32a) オレってばもっと強くなりてーんだ = (21)  
(32b) オレはもっと強くなりてーんだ  
(32c) オレ~~は~~もっと強くなりてーんだ

しかし、すべてが「は」でも「無助詞」でも置き換えることができるわけではなく、「は」でなければ不自然な例、「無助詞」でなければ不自然な例が存在する。

まず、「は」でなければ不自然となる例を挙げる。(33a)は眉毛が特徴のシカマルという人物が目の前に現れた際に、(34a)はイタチの術が視界に入った際に発せられたものである。「ゲジマユ」も「イタチの術」も既知の対象であり、この発話は驚きとともにその対象の再認識を言語化したものと言える。この場合、「無助詞」にするとなにか言葉足らずな印象を受ける。<sup>8</sup>

7 〔野田 1996: 269〕に「単なる主題を表す」場合、「主題性の無助詞になりやすい」との記述がある。

8 〔筒井 1984: 115〕は「「X ハ」の対応部分が強調される時は「ハ」の省略は不自然になる」としている。(33) (34)の現象はこの主張に通じるものがある。

- (33a) あー! お前ってばゲジマユ!! (7: 53)  
 (33b) あー! お前は/?φゲジマユ!!  
 (34a) アレってばイタチの術...!! (43: 123)  
 (34b) アレは/?φイタチの術...!!

〔前田 1998〕は「省略不可能ないし省略になじまないハ」の条件として以下の①～③を挙げている。<sup>9</sup>

- ① 助詞ハでマークされた主題に対する述部が省略されて  
 いる時  
 ② 強い対比を表すハの時  
 ③ ハが部分否定を形成し、また、ハが最大値、最小値を  
 マークする時  
 〔前田 1998: 51〕

このうち①に該当する例が『NARUTO』でも見受けられた。(35a)は以前カカシが読んでいた小説を自来也が取り出した時に発せられたもの、(36a)はサクラがナルトにカカシの弱点を教えるよう要求した発話に対する返答である。いずれも述部が省略されているため「は」でなければならない。先行文脈に出てきている語を「それ」で受けているが、やはり「ってば」を用いると違和感をおぼえる。

- (35a) あー! それってばあー! (11: 9)  
 (35b) あー! それは/×φー!  
 (36a) ニシシ...それってばね... (28: 43)  
 (36b) ニシシ...それは/×φね...

次に、「無助詞」でなければ不自然となる例を見ていくが、はじめに「無助詞」となる条件について確認しておく。〔三枝 2005〕は、もとの助詞が省略されたもののはかに、もともと「無助詞」である場合があるとし、「無助詞格」の存在を主張している。例えは(37)のような「呼びかけ」の例を挙げ、「呼びかけは、聞き手の話し手への注意を向かせる合図だから、それ自体に格はなく、後続する文との間に格関係は成り立たない」〔三枝 2005: 19〕としている。

- (37) <田中さんに向かって> 田中さん、どこ行くの?  
 〔三枝 2005: 19〕

<sup>9</sup> ①②に関しては〔筒井 1984〕〔野田 1996〕などにも同様の主張がなされている。

『NARUTO』の中にも本来「無助詞」であるべき「呼びかけ」にキャラ語「ってば」が付加している例も見られ、これはかなり余剰的であり、キャラ語としての性質が最も強く表れていると言える。(38)の「ってば」は文末表現とも捉えられなくもないが、これは「みんなってば、逃げっぞ!!」という文が倒置しているとも考えられる。仮に文末表現であっても、先行文脈に「みんな」に「逃げる」ことを指示するような記述が見られないことから「ってば」の使用は不自然である。

(38) 逃げっぞ!! みんなってば!!

[15: 52]

〔三枝 2005〕は「呼びかけ」以外の場合にも「無助詞格」となる例があること示し、名詞句 X が(a) (b)である場合、また、(c) (d)のような場合、「無助詞格」がよく用いられるとしている。<sup>10</sup>

- (a) 話し手、聞き手双方に明らか、もしくは、そう想定される指示代名詞、人称代名詞類。
- (b) 指示代名詞に準ずる、話し手、聞き手双方に明らか、もしくは、そう想定される事物。
- (c) 現象文を疑問文・否定文にする場合。
- (d) 意志・依頼・命令文

[三枝 2005: 26-27]

また、〔前田 1998: 49〕は「くだけた文体を使用したいかにも会話的な文であること」を「は」が省略される第一の条件としている。これはもともと「は」があるという前提での主張と考えられるが、「いかにも会話的な文」においてはもともと「無助詞」であるとしたほうが適切な場合がある。ナルトの例で確認してみると、(39a) (40a)の例は「無助詞」のほうが自然な印象を受ける。「は」でマークすると「オレ」以外の誰かの存在を示唆するという解釈も可能であるが、他の者が何かをするというような場面でなく、ナルトの意志が現れている発話である。上記(d)に該当する「意志」が現れた文で、「～てくる」、「～ちゃおー」のようなくだけた表現を含む文ではやはり「無助詞」のほうがより自然である。(41a)は例外的にもともと「を」が現れる場所に「ってば」が使われている例であるが、文としては上記(d)に該当する「依頼文」で

10 〔三枝: 2005〕では(a) (b) (c) (d)ではなく(1) (2) (1) (2)という番号が付されているが、本稿では便宜的に(a) (b) (c) (d)とする。

あり、かつ「ちょーだい」というくだけた表現が用いられており、また、イカ焼き屋台での発話であるため「イカ焼き」は上記(b)に該当し、やはり「無助詞」が自然である。

- (39a) オレってば雷影に会ってくる!! (49: 36)  
(39b) オレ{φ/?は}雷影に会ってくる!!  
(40a) オレってばガンバっちゃおー! (20: 53)  
(40b) オレ{φ/?は}ガンバっちゃおー!  
(41a) イカ焼きってば2本ちょーだい! (17: 115)  
(41b) イカ焼き{φ/?は/?を}2本ちょーだい!

#### 4.3 キャラ語「ってば」と「主格」の「が／の」

今回収集した中で、最も特殊な例が(42a)である。この例は一見ナルトが自分自身を責めているような印象を受けるかもしれないが、実は師匠である自来也がナルトの金を使ってしまったことをナルトが非難している発話である。本来なら主格を表す「が」または「の」が現れるべきであるのに「ってば」が出現している。連体節と主文の主語が異なるため連体節内の「オレ」を「は」でマークすることはできないし、また「無助詞」も不可能である。<sup>11</sup>収集した例の中で、「ってば」が「が」の代わりに用いられているのはこの例のみである。

- (42a) オレってば必死に貯めたお金使いこみやがってエー! (17: 117)  
(42b) オレ{が／の／×は／×φ}必死に貯めたお金使いこみやがってエー!

#### 4.4 まとめ

本節ではキャラ語「ってば」について詳しく分析した。「ってば」は基本的にはキャラクターを特徴づけているのであるが、ほぼすべてが主格の位置に現れ、本来「は」であるべきところ、「無助詞」であるべきところ、「主格」の「が／の」が現れるべきところに自由に出現していることが判明した。

<sup>11</sup> [前田 1998: 62] は「複文の連体節の中では動詞述語文の場合、省略が難しく、形容詞、形容動詞述語文においては省略が容易である」としている。

## 5 キャラ語翻訳の問題

最後にキャラ語の翻訳の問題について触れておきたい。現代のドイツにおけるマンガ(コミック)翻訳状況に関しては〔細川 2011〕に詳しく論じられており、以下のような記述がある。

[...]マンガ翻訳に際するスコポスが変化した 2000 年代においては、ドイツ語圏とはまったく異なる文化圏から輸入されているマンガ翻訳に際しても、なるべく本来の(役割語も含めた)日本語を生かした翻訳が見られるようになった。<sup>12</sup>

〔細川 2011:163〕

そして、その実例としてマンガ『バガボンド』のドイツ語版で「侍ことば」である敬称としての「殿」、文末表現「候」がそのままローマ字で表記されている例を挙げている。

- (43) Kanemaki Jisai-Dono, nicht wahr? (鐘巻自斎殿ですな?)  
(44) [...] friedlich meinem Ende entgegengehen, soro. ([...] 安らかに自らの死に向かい候) 〔細川 2011:164〕

本稿では『NARUTO』全巻の翻訳例を調査することは不可能ではあるが、簡単な傾向と特徴だけは指摘しておきたい。

1巻から3巻までを調査対象とすると、キャラ語「ってば」は24例現れていることがわかる。そして、対応するドイツ語訳を見る限り、キャラ語「ってば」には特に注意が払われていないことがわかる。(45b) (46b) (47b)のドイツ語はいわゆる普通のドイツ語で、もしナルトの発話であるとの情報なしに日本語に再翻訳したら、「ってば」という表現はまず出てこないだろう。

- (45a) オレってば明日っから一足先に忍者だ! (1: 83)  
(45b) Ich bin von Morgen an ein Ninja! (1: 81)  
(46a) オレってばもう二度と助けられるようなマネはしねえ... (2: 65)  
(46b) Ich werde nie wieder von anderen Hilfe brauchen... (2: 63)  
(47a) オレってばもっと強くなりてーんだ = (21)  
(47b) Ich will stark werden. (3: 72)

12 スコポス(Skopos)は [Reiß & Vermeer 1984: 96] で用いられている用語で Zweck, Ziel を表す。〔細川 2011: 159〕でそれぞれ「翻訳目的」、「翻訳目標」と訳されている。

ただ、キャラ語でなくても「ってば」のような話者の気持ちを反映した表現は翻訳が困難であることも否定できない。(48a)はナルトの里の仲間であるサクラの発話で、これは文末表現の「ってば」である。文末表現の「ってば」は「自分の意志や考えをすぐには理解しない相手に対して、反ばくの気持ちを込めて、自分の意志や考えを主張する」際、あるいは、「命令や呼びかけを表す文に付いて、相手がすぐそれに応じないことに対するいらだちやじれったさを表す」〔日本語教育学会 1982: 416〕際に使われる。この発話の前にすでに「なに子ども相手にムキになってんのよバカ!」(2: 197)というサクラの発話があり、それでもやめようとしないナルトに対するいらだちが現れている。(48a)の「ってば」は実際に使用されるものであり、キャラ語とは言えないものであるが、やはりドイツ語訳には対応する表現が明示されていない。

- (48a) やめなさいってば!! (2: 198)  
(48b) Sei ruhig!! (2: 196)

(49a) (=42a) は 4.3 で述べたとおり特殊な例であるが、このドイツ語訳は「ってば」によって隠されている所有のニュアンスを正確に捉え、Mein Erspartes という表現を用いて翻訳している点は評価できる。

- (49a) オレってば必死に貯めたお金使いこみやがってエー! (=42a)  
(49b) Du hast mein Erspartes verprasst! (17: 115)

以上見てきたようにキャラクターの特徴を活かしつつ翻訳する作業は容易なことではないが、今後一層必要となってくるであろう。

## 6 おわりに

本稿ではナルトの用いる提題表現「ってば」をキャラ語として捉え考察した。その結果、「ってば」は基本的にはナルトというキャラクターを特徴づけているのだが、その出現箇所を調査してみると、本来「は」が現れるべき場合、本来「無助詞」となる場合、本来「主格」の「が／の」でなければならない場合を無視し提題助詞として自由に現われていることが判明した。そして翻訳についても触れ、キャラ語「つ

てば」は的確に訳されていないことを指摘した。キャラ語は、もちろんキャラクターを特徴づけるために使用されているのだが、単にキャラクターのことばとして片付けてしまうのではなく、言語学的な視点から考察することも重要な意味を持つ。そしてその知見をもとに翻訳という実践的な作業に活かすことができれば、教育的な意味でも有益となる。マンガやアニメは今後も日本語学習の動機となることが予想され、その言語表現を様々な観点から分析していく必要がある。

## 参考文献

- 金水敏. 2003. 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』 岩波書店, 東京.
- 金水敏. 2011. 「現代日本語の役割語と発話キャラクタ」 金水敏 (編) 『役割語研究の展開』 (くろしお出版, 東京), 7-16.
- 三枝令子. 1999. 「提題の「ってば」「ったら」—「珠美ったら、無茶言わないでよ」—」 『一橋大学留学生センター紀要』 第2号, 1-11.
- 三枝令子. 2005. 「無助詞格—その要件—」 『一橋大学留学生センター紀要』 第8号, 17-28.
- 定延利之・張麗娜. 2007. 「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」 彭飛編 『日中対照言語学研究論文集』 (和泉書院, 大阪), 99-119.
- 筒井道雄. 1984. 「「ハ」の省略」 『言語』 (大修館書店, 東京) 13卷5号, 112-121.
- 日本語教育学会編. 1982. 『日本語教育事典』 大修館書店, 東京.
- 野田尚史. 1996. 『新日本語文法選書 1「は」と「が」』 (くろしお出版, 東京).
- 細川裕史. 2011. 「コミック翻訳を通じた役割語の創造—ドイツ語史研究の視点から—」 金水敏(編) 『役割語研究の展開』 (くろしお出版, 東京), 153-170.
- 前田昭彦. 1998. 「日常会話における助詞の省略」 『長崎大学留学生センター紀要』 第6号, 43-70.
- Reiß, K & Vermmer, H. J. 1984. *Grundlegung einer allgemeinen Translationstheorie*. Tübingen: Niemeyer.

## 参照 URL

wikipedia 「NARUTO—ナルト—」 最終閲覧日 2013 年 2 月 23 日.  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/NARUTO-ナルト->

wikipedia 「Naruto (Manga)」 最終閲覧日 2013 年 2 月 23 日.  
[http://de.wikipedia.org/wiki/Naruto\\_\(Manga\)](http://de.wikipedia.org/wiki/Naruto_(Manga))

はてなキーワード 「ボクっ娘」 最終閲覧日 2013 年 2 月 23 日.  
<http://d.hatena.ne.jp/keyword/ボクっ娘>

## 用例出典

岸本齊史 『NARUTO』 集英社  
Masashi Kishimoto. *Naruto*. Hamburg: Carlsen